

東郷寺略縁起

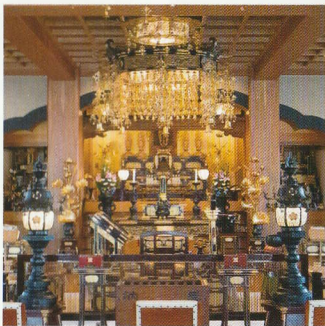
東郷寺は、東郷平八郎を開基とし、身延山久遠寺を総本山とする日蓮宗の寺院です。元帥は法華経の信者であり、仏道修行の人に、修行に必要なものを供給して身心に安穩を与える外護者でもありました。この境内地は、大正二年に元帥自ら買い求められた場所です。

元帥は自らの没後にこの土地に法華経の道場を建立する事と、発願の人たちの熱心な願いにより山号を聖将山とし、東郷寺とする事を承諾。元帥の滅後、東郷家より寄進された約五千坪のこの土地と、隣接する土地を購入し約一万二千坪を境内地と定めました。昭和十一年に「東郷寺建設会」が設立され、昭和十四年、公爵東郷元帥を開基とする東郷寺が誕生しました。

第二次大戦後、農地解放・本末解体などのあおりを受け消滅の危機を迎えた東郷寺を寺族の方々を中心として守り抜きました。昭和二十九年、元帥の浄願を達成するための第一歩として、戦没者遺族に対して供養のための墓所の無償提供を始め、昭和、平成、そして令和の時代を経て現在に至ります。



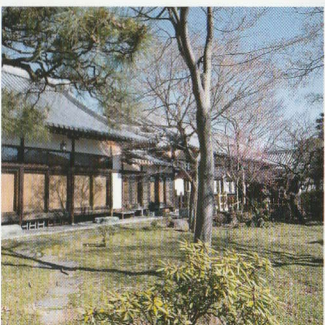
本堂外観



本堂内陣



小笠原長生書揮毫石碑



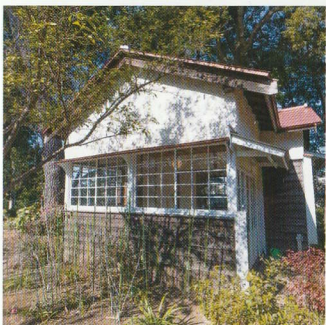
新書院



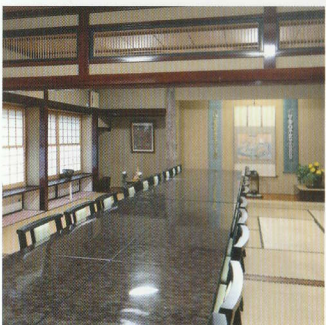
客殿外観



客殿大広間



東郷元帥別荘



旧書院

聖将山東郷寺は、東郷平八郎を開基とする日蓮宗の寺院です。

山門は荘厳で重厚感あふれ、

2010年には東京都選定歴史的建造物に指定されました。

山門下の枝垂桜は、戦争で犠牲になった

御霊を供養し平和を願う思いを込めて、

日蓮宗の総本山である身延山久遠寺から苗を拝領致しました。

近隣の方々に春の訪れを告げる府中市の名所となっております。

